

昆陽だより

2025 年 10 月 秋号

昆陽だより発行委員会事務局:

幕張公民館内

千葉市花見川区幕張町 4-602

電話 043-273-7522

(受付時間 9:00~17:00)

幕張とさつま芋と青木昆陽

1732年に全国が享保の大飢饉に見舞われました。青木昆陽の発案でさつま芋が救荒作物として幕府に採り上げられ、幕張で試作され見事成功しました。

江戸時代の幕張は馬加(まくわり)村と言われ、この地は行徳や上総の豊海不動堂村とともに江戸北町奉行所南町奉行所の与力50名の給地でした。

徳川幕府の命により1735年(享保20年)青木昆陽が小石川薬草園と馬加村と豊海不動堂村でさつま芋の試作を行いました。

青木昆陽は、1698年(元禄11年)江戸日本橋小田原町の魚問屋の子として生まれ、幼名は文蔵と称しました。子供の頃から本を読むことが好きだったので、親もあきらめて学問を許し、22歳の時に京都堀川・伊藤東涯の古義堂に入門させました。学友・松岡成章という者より、ふかしたさつま芋をもらい、その時に作り方や荒涼地でも育ち又飢饉の時に米の代わりになることなど教わりました。



かつての昆陽神社

昆陽24歳のとき、実家は火事になり両親は茅場町に引っ越しました。

25歳で江戸に帰った昆陽は南町奉行所の与力・加藤枝直(国学者)の家作に住み、塾を開いて生計を立てました。

茅場町の親の世話をしたり、親の死後1年間の喪に伏すなどの姿を見聞きしたりした加藤枝直は南町奉行・大岡越前守に感心な若者がいると伝え、青木昆陽を引き合わせました。



現在の昆陽神社

その折、飢饉対策について問われ、さつま芋の話をしました。それを「蕃薯考(ばんしょこう)」「蕃薯はさつま芋のこと)に記し提出しました。

それを読んだ時の将軍吉宗はすぐに取り上げ、昆陽を「薩摩芋御用掛」に任じ直ちに試作を命じました。

昆陽は畑にさつま芋を埋めて、蔓(つる)が出たらそれを切り取り又畑に刺す方法を馬加村と豊海不動堂村で行いました。不動堂村では失敗し、さつま芋は採れませんでした。馬加村では17個のさつま芋から2石7斗6升(約1150Kg)の収穫がありました。幕府が、さつま芋の栽培方法を広めたことにより各地で飢えに苦しむ人が大勢救われました。

その後、武石村に薩摩浪人・織田玄琳が現れ、苗床による栽培方法を教え、これにより生産量が飛躍的に増加しました。下総・上総に苗を売りさつま芋の大生産地になるとともに、さつま芋からデンプンや飴を作る業者も生まれました。



青木昆陽先生甘藷試作之地の碑

青木昆陽の遺徳(いとく)を偲び昆陽神社が1846年(弘化3年)に創建されました。大正8年にデンプン業者らにより「青木昆陽先生甘藷試作之地」の碑が建てられました。又幕張小学校や幕張中学校の校章はさつま芋の葉をデザインしたもので、昭和時代の人達は「いも小・いも中」と愛称を込めて呼んでいました。



★ ★ ★ ま ち の た よ り ★ ★ ★

- | | | |
|--------------|---------------------|--------------|
| ◎幕張地区町民家族運動会 | 10月4日(土)午前9時～ | 幕張東小学校にて |
| ◎子安神社秋季大祭 | 10月17日(金)午後3時頃より | 御神楽・餅まき |
| ◎幕張地区文化祭 | 10月18日(土)・19日(日) | 幕張公民館にて |
| ◎三代王神社秋季大祭 | 10月20日(月)午後3時頃より | 御神楽・餅まき |
| ◎花見川区民祭り | 10月26日(日)午前10時～午後3時 | 花島公園 |
| ◎幕張コミュニティまつり | 11月9日(日)午前10時～午後3時 | 幕張コミュニティセンター |



※実施の内容については各神社などにお問い合わせください。

今日のスケッチ

この夏も大変な猛暑でしたね。

身体を動かしたくてたまらない、エネルギッシュな子どもをもつ親御さんたちにとっては、室内ばかりで過ごさせることにもいかず、課題だったのではないのでしょうか？

我が家では、朝など短時間でも涼しい時間を見つけたときは、公園で遊ばせていました。

木陰で水分補給をしながら涼んでいたところ、同じく涼んでいた初対面の方と話すことができました。他愛もない会話をしながら、アゲハ蝶やトンボが横ぎる夏の景色をみられたことは、暑さも和らぐような豊かな時間となりました。

お花見ではお馴染みですが、木の下というのは季節問わず交流の場になるのだなと感じました。



昆陽だより制作についての取材を受けました！

嬉しいことがありました！

先日昆陽だよりの打ち合わせをしている時に、幕張東小学校の児童の訪問を受けました。夏休みの自由研究で、日頃、学校で配られている昆陽だよりがどの様に作られているかに興味を持ちテーマにしたそうです。

2時間ほどの間に色々な質問を受けました。どの様にまとめたのかとても楽しみです。よろしければ、皆さんも見学がてら遊びにきてください。



☆☆☆ 公民館からのお知らせ(10月~12月分) ☆☆☆

◎主催事業のご案内

講座名	詳細
検見川の歴史を歩こう 検見川の旧道を中心とした古い街並みを散策しながら歴史を学びましょう。お寺や神社等に立ち寄り、その場所の歴史についてお話しします。	10/24(金)9:30~12:30 対象: 成人 定員: 30人 参加費: 無料 申込: 10/2(木)~10/10(金) 必着 
遺言書を守る!自筆証書遺言書保管制度 遺言書を法務局で保管する自筆証書遺言書保管制度の概要、利点、注意点等について説明します。	11/18(火)10:00~11:00 対象: 成人 定員: 30人 参加費: 無料 申込: 10/25(土)~11/7(金) 必着 
食肉料理講習会 お肉を使った料理を調理して試食します。お肉についてのお話もあります。 共催:千葉県食肉事業協同組合連合会	11/28(金)10:00~13:00 対象: 成人 定員: 15人 参加費: 無料 申込: 10/16(木)~11/11(火) 必着 
千葉県文書館出前講座 「神道・神社の歴史と房総」 房総には古代から数多くの神社があります。神道・神社の歴史を切り口に房総地域を見直していきます。	12/23(火)10:00~12:00 対象: 成人 定員: 30人 参加費: 無料 申込: 12/2(火)~12/9(火) 必着 

往復はがきに①講座名、②お名前(フリガナ)、③ご年齢、④ご住所、⑤電話番号を記入して幕張公民館までお送りください。幕張公民館 HP から可。内容・日程等変更・中止になる場合があります。

図書室 から

今年もやります! 文化祭、イベント情報!!

10/18(土)、19(日)にひらかれる文化祭にあわせ、幕張公民館図書室で除籍した雑誌等をお譲りするイベントを今年も行います。お渡しする数に制限があり、量もあまりなくてご満足いただけないかもしれませんが、ご興味のある方は、お早目にいらしてくださいと良いかと思ひます。



↑ 昨年の雑誌無償譲渡



← 昨年のくじびき

小学生以下のお子さま向けには、恒例の「くじびき」も実施します。賞品は、ささやかなものかもしれませんが、お楽しみになさってください♪

詳しい情報は、館内のポスターに掲示しております。ご不明な点は、カウンター職員に気軽にお問い合わせください。笑顔でお待ちしています!

サークル紹介 …ここヨガサークル

「ここヨガ」は、ヨガを学ぶサークルです。健康・体力増進、運動不足・ストレス解消、免疫アップを目的としています。身体が硬くてもできる範囲で自分と向き合い、体調を整え、日々の生活を穏やかに過ごせるようなレッスンです。現在12名で活動しています。ご興味のある方は、公民館にお問い合わせください。

日時：第1・第3木曜日 10時～11時20分

場所：幕張公民館 講堂

費用：1回 1,000 円(初回体験無料)

講師：岩城真由美



◇ 幕張雑記帳 馬加(幕張)城とゆかりの武将①

来年が千葉開府900年にあたるので、前回に続いて千葉氏に関係する地元の歴史を振り返ってみたいと思います。

幕張東小学校の北側、幕張3丁目の高台に“お城”があったと伝えられる場所があります。標高約20㍍、下の道路からは15㍍ほどの台地で、現在はマンションが建っています。地元にはこの場所に、平安時代末期から鎌倉時代初期に千葉常胤の四男・大須賀胤信が、また室町時代に馬加康胤がそれぞれ城館を構えたという伝承が残されています。

1980年(昭和55)にマンションの建設に先立ち「馬加城遺跡調査会」による発掘調査が行われました。これにより弥生時代・古墳時代・平安時代初期にわたる竪穴住居跡8, 土坑(どこう)2, ほかに翡翠の勾玉・土器など多数が見つかり千葉市内でも極めて貴重な遺跡として認知されました。しかし残念ながら城や館の存在に結び付く発見はありませんでした。

しかしこの場所は東西を花見川と浜田川に挟まれ、南には房総往還を見下ろせる舌状台地の西端に位置する正に天然の要害であり城館を構えるのに最適な所です。また地元では昔使われた土地表記の小字(こあざ)の“道城台”に館があり、“道城根”に大手門が、館の東側の小さな谷を隔てた台地上の“椎崎”には家臣の屋敷や海隣寺、素加天王社(後の子守神社)があったとする伝承が残されており、具体的でかなり信憑性が高いと思います。

次回から、大須賀胤信と馬加康胤についての伝承を「幕張郷土誌(1983年)」を参考にしながらご紹介したいと思います。



馬加(幕張)城址

ティータイム

昆陽だよりの制作に携わりたいという方が現れました。これまで紙面の言葉を辞書で引きながらその意味を学んだり、過去の号を取っておいたり、昆陽だよりに親しんでこられたそうです。なんと嬉しいことでしょう。早速今号の「今日のスケッチ」を担当していただきました。昆陽だよりを一緒に盛り上げてくださる方を歓迎します。興味がありましたら、ぜひお声がけください。(K.S)

